

常磐海岸新報

旬刊 三回 七、七、七
 定價 一月 二十錢
 廣告 一、行 五十錢
 印刷 石井英次郎
 發行所 福島縣平野町常磐三
 常磐海岸新報社

縣經濟將來の爲め

四倉築港の實現を期せ

獨り四倉町の爲め計りでない

東北東沿 岸中有用魚類の増集地として漁業に最も有望視されてゐる本縣であり乍ら、他縣と比較して其の營業振りの甚ば振はざる状態にあることは漁業遠洋の進化に伴ふ船体の擴大からこれが漁船碇泊と出入に極めて不利なる地帯にある關係であつて、行詰らんとする縣經濟の將來を救済する意味から漁港修築の要を叫ばれるやうになつた事は當然であらねばならぬ。恐らく、縣經濟界は、漁業の浮沈に左右されるものが多いとい言はれてゐる現状にあつて

年衰微の傾向にあるは年々南部期同盟會を組織し、町會及び濱との比較統計に表はれる事實漁業組合と相呼應して、物質的であつて、國家經濟上、縣經濟上、精心的多くの犠牲を拂ひ北部重上より打算するも最も、早く築港達成に決死的努力を續けるが、この泪ぐましい犠牲可能性を有してゐる年の猛運動に對しては四倉町の魅

未だに惠まれぬ廢港同様置かれると云ふ事は、實に不可思議とせざるを得ない。大影響ある見地より吾人の深く可思議とせざるを得ない。今や江名以北築港修築の懸案の感謝するところ此の壯舉を推し進め、昔日の面影もなく賞するに憚るものでない。廢れ行かんとする現状に鑑み、而かも縣經濟の前途に重大なる四倉町に於ては舉町一致の築港關係ある漁港修築運動に當面し

四倉警察署長

水谷智造君に與ふ

石井英次郎

過般、四倉町に於ける小林忠平一派の電氣料値下演說會の裏面に僕が介在し、暗んに小林等を使喚したかの如き口吻を門馬倉次郎氏等に洩らし、其理由として「小林忠平が本社在動中に多額の使ひ込みのあるに何等の手段を講せず今日に至るも猶黙認して居る」

故と斷じ、猶僕に向ひ「君が小林と何等の關係なしと云ふなら告訴(小林)したら如何と親切にも僕に向つて獎勵たことは、イクラ老齢でも君の記憶にあると思ふが如何。」

小林在社中の費消金に對する措置如何は、小林の行爲ソノ

同業昨今

◆警城經濟紙の鈴木默鐘君「新聞の新聞」欄で平新報の警銀攻撃記事の所をスツバ抜いてゐるが、又山野邊君が怒り出して一ト筆戦初まるだらう、どうしてもこの二君の仲が融和する時期がないらしい困つたものだ。

暑中御伺

常磐海岸新報社

◆山田綠雨君「一萬八千字の「郷難打開論」を執筆中だぞうだが、早く拜見したいと一般に鶴首されてゐる。

◆調査新報の馬目麥人君電話が當選したので御目出度うと云つたら、四百八十圓が苦心の種で夜も寝られんぞと云ふソナナ氣の小さい人でないか、こんな事を云ふ丈け財的に安心なんだらう、羨ましいもんだ。

◆警城の實業の大和田與平君近來猛烈に平銀系や山古合名に食つてか、つてゐるが、氏

株式平銀行

第六十四期決算報告

貸借對照表

現金預け金勘定	三、八、三、三〇〇
有價證券勘定	七、三、四、八〇〇
割引手形勘定	一、九、七、四、六〇〇
貸付金勘定	四、四、一、七、〇〇〇
貸付有價證券	六、四、〇、〇〇〇
他店貸	三、五、七、八、九〇〇
動産不動産勘定	一、二、九、四、六〇〇
株主勘定	七、五、〇、〇〇〇
計	六、三、五、〇、二、四、三、七、八〇〇
負債(貸方)	
預金勘定	三、六、四、〇、四、九、〇〇〇
借用金勘定	四、〇、〇、〇、〇〇〇
他店借	七、〇、〇、〇、〇〇〇
雜勘定	六、三、三、四、〇〇〇
株主勘定	二、二、六、八、〇〇〇
計	六、三、五、〇、二、四、三、七、八〇〇

第七期營業報告書

(昭和參年上半期)

貸借對照表

未拂込資本金	三、五、〇、〇、〇〇〇
線路屋内工作物	五、二、六、六、八〇〇
機械器具貯藏品及土地建物	六、五、三、八、〇〇〇
什器	一、五、九、〇、〇〇〇
有價證券	一、五、九、〇、〇〇〇
假拂金	六、五、一、二、七〇〇
受取手形及未收入金	五、〇、九、九、六〇〇
發電所勘定	一、六、二、四、六、二〇〇
變電所勘定	二、四、三、八、八〇〇
預け金及現金	三、六、〇、〇、〇〇〇
計	六、四、六、〇、八、九、〇、二、八〇〇
負債之部	
資本金	五、〇、〇、〇、〇〇〇
諸積立金	一、八、七、六、〇〇〇
假受金	三、八、七、二、〇〇〇
社債及借入金	一、〇、〇、〇、〇〇〇
支拂手形及未拂金	三、九、四、四、八〇〇
未拂配當金	八、五、二、〇〇〇
当期利益金	九、七、八、五、〇〇〇
計	六、四、六、〇、八、九、〇、二、八〇〇

株式平銀行

昭和三年六月三十日

専務取締役	山崎與三郎
取締役	木村清治
取締役	堀江正直
取締役	高岡唯一郎
常任監査役	新田目善次郎
監査役	吉田禮次郎

植田水電氣株式

昭和參年六月參拾日

取締役社長	金成
取締役	安島重三郎
取締役	白井博之
取締役	高岡唯一郎
取締役	小林威次
取締役	古川傳一
監査役	根本祐太郎
監査役	馬上一誠
追而取締役任期満了、處改選ノ結果全員再選就任セリ	